

科目の教育目標・授業計画 「2024年度」

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	放送映像学科
科目番号	0201	科 目 名	スタジオ実習Ⅰ			科目区分	実務家教員
科 目 群	専門	担当講師	榎本 悟・斎藤孝行・菅谷正之			履修区分	必修
開講学年	1	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	実習
教 科 書	なし（都度参考資料配布）			参考書	（同左）		
成績評価	平常点や授業の貢献度 65% 番組制作課題作品の評価 35%						

1. 授業概要

スタジオ番組制作実習を通してテレビの用語やルール、機材の取り扱いを理解し、チームワークの大切さ、仕事の楽しさを学ぶ。そして当校の番組スタジオ実習室を活用し実習授業を積み重ねることで、来るべき未来に即戦力として活躍できるよう学生らの成長を促す。また実務経験教員である斎藤先生はスタジオ業務におけるビデオエンジニアとして30年以上の経験があり、その高い経験値を最大限実習授業に反映させ、より実践的で先端的な授業を展開する。

2. 到達目標

2年次の実習に対応出来るよう基礎技術を習得する。

3. 授業計画

前期	
1	授業説明 安全について スタジオ機材説明(ペDESTALカメラ・SW・ミキサー・照明卓・CG) 体験
2	ペDESTALカメラ練習 (パン・ズーム・フォーカス・ドリー) 名前CGテロップ作成
3	照明概論 照明機器説明 サブ機器説明 (SW ミキサー 照明卓 CG) 8の字巻体験
4	人物サイズ説明 TALL/ RET/インカム説明 ハンディーカメラ体験 音声ミキサー卓実習 (マイク 音出し)
5	CAM SW MIX 実践 (自己紹介を兼ねたインタビュー形式の対談でSW体験)
6	総合照明実習 人物カメラサイズ説明 ペDESTALワーク練習
7	総合音声実習 8の字巻き習得 ハンディーカメラレンズ操作練習 QUE シート説明
8	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (叩いてかぶってジャンケンポン)
9	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (叩いてかぶってジャンケンポン)
10	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (床で神経衰弱)
11	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (床で神経衰弱)
12	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (床で神経衰弱)
13	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (椅子取りゲーム)
14	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (椅子取りゲーム)
15	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (椅子取りゲーム)
16	前期末実技試験準備 筆記テスト 試験対策補習 8の字巻き復習
17	筆記テスト 前期末実技試験 (8の字巻き)
後期	
1	後期プラン発表 ジブ体験 ハンディーカメラ (ショートズーム) 照明強化実習 バックフォーカス講座
2	番組制作体験実習 (クイズ・トーク・バラエティー番組)
3	歌番組で総合制作 カメラ強化 (ドリーワーク・ハンディーカメラ) 照明強化 音声卓強化(N-1)
4	歌番組で総合制作 カメラ強化 (ドリーワーク・ハンディーカメラ) 照明強化 音声卓強化(N-1)
5	歌番組で総合制作 カメラ強化 (ドリーワーク・ハンディーカメラ) 照明強化 音声卓強化(N-1)
6	2元中継 (中継) SW強化 (ワイプ) 照明強化 音声強化(掛け合い (N-1)
7	2元中継 (中継) SW強化 (ワイプ) 照明強化 音声強化(掛け合い (N-1)
8	2元中継 (別スタジオ) SW強化 (ワイプ) 照明強化 音声強化 (掛け合い N-1)
9	2元中継 (別スタジオ) SW強化 (ワイプ) 照明強化 音声強化 (掛け合い N-1)
10	スタジオ簡易ドラマ実習
11	スタジオ簡易ドラマ実習
12	スタジオ簡易ドラマ実習
13	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (人間すごろく)
14	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (人間すごろく)
15	番組制作体験実習 ゲームでSW体験 (人間すごろく)
16	後期技術試験 (8の字巻き) 試験の様子をSW実習
17	後期技術試験 (8の字巻き) 試験の様子をSW実習

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	放送映像学科
科目番号	0215	科 目 名	スタジオ実習 II			科目区分	実務家教員
科 目 群	専門	担当講師	高梨、斎藤(孝)、菅谷			履修区分	必修
開講学年	2 年	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	実習
教 科 書	なし（都度参考資料配布）			参考書	（同左）		
成績評価	平常点や授業の貢献度 65% 番組制作課題作品の評価 35%						

1. 授業概要

実習毎に設定されるテーマに応じて番組制作をグループ毎に行い、より実践的なスタジオ番組制作技術を習得する。そして当校の番組スタジオ実習室を活用し実習授業を積み重ねることで、来るべき未来に即戦力として活躍できるよう学生らの成長を促す。また実務経験教員である高梨先生はスタジオ業務におけるテクニカルディレクターとして40年以上の経験があり、その高い経験値を最大限実習授業に反映させ、より実践的で先端的な授業を展開する。

2. 到達目標

テレビ番組制作に関わる人材として通用する技能と意識を身に付ける

3. 授業計画

前期	
1	自己紹介を行い、その自己紹介の模様を収録する
2	各種ケーブルの巻き方、カメラレンズの脱着の方法を学習する
3	カメラの移動方法（ペDESTAL操作）を学習する
4	人物を撮影する際の各サイズを学習する
5	人物への照明の当て方、音の取り方を学習する
6	一人しゃべり、二人対談の撮影方法を学習する
7	三人対談、四人対談の撮影・音声・照明の各技術を学習する
8	五、六人時の対談撮影方法を学習する
9	胸像を使用しカメラワークと照明の当て方を学習する
10	特機であるクレーン使用し、そのクレーンワークを学習する
11	歌番組を制作し、撮影・音声・照明の各技術の能力を向上させる
12	紙芝居を撮影し、カメラ割りとシーンに応じた照明効果を学習する①
13	紙芝居を撮影し、カメラ割りとシーンに応じた照明効果を学習する②
14	紙芝居を撮影し、カメラ割りとシーンに応じた照明効果を学習する③
15	クロマキーを使用した映像合成技術を学習する
16	前期まとめ、総復習①
17	前期まとめ、総復習②
後期	
1	オリジナル番組を制作する 歌番組
2	オリジナル番組を制作する ドラマ①
3	オリジナル番組を制作する ドラマ②
4	オリジナル番組を制作する ドラマ③
5	オリジナル番組を制作する カードゲーム（UNO）①
6	オリジナル番組を制作する カードゲーム（UNO）②
7	オリジナル番組を制作する 料理番組 準備
8	オリジナル番組を制作する 料理番組 本番
9	オリジナル番組を制作する 生放送番組 企画、準備①
10	オリジナル番組を制作する 生放送番組 企画、準備②
11	オリジナル番組を制作する 生放送番組 本番
12	オリジナル番組を制作する 学校コマーシャル 企画、準備①
13	オリジナル番組を制作する 学校コマーシャル 企画、準備②
14	オリジナル番組を制作する 学校コマーシャル 収録
15	オリジナル番組を制作する 制作した全ての番組の視聴、評価
16	カメラの移動方法（ペDESTAL操作）を復習し能力を更に向上させる
17	カメラワークとサイズを復習し能力を更に向上させる

科目の教育目標・授業計画「2024年度」					学 科 名	TVディレクター学科	
科目番号	0207	科 目 名	テレビ制作入門		科目区分	専任 実務家教員	
科 目 群	専門	担当講師	矢追孝男		履修区分	選択必修	
開講学年	1 年	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	大学生のための動画制作入門：言いたいことを映像で表現する技術- 2017/4/27 黒岩 亜純 (著), 宮 徹 (著) 慶應義塾大学出版会			参考書	なし		
成績評価	レポート50%、平常点や授業への貢献度50%。						

1. 授業概要

テレビ制作者として何を大切にし、どんなことに気を付けるべきか、「制作現場が欲しい人材・ともに働きたい仲間」とは何か、視聴率の仕組みやテレビ業界での就活の実際等、基本となる知識やスキルを身に付けていきます。

また、放送だけでなく、YouTube等のネット動画環境も見据えた、映像制作の基本を、実践も交えて学んでいきます。

2. 到達目標

テレビ制作者として、基本となる知識を身に付け、社会人としてのマナーや常識を踏まえた最低限の行動が取れるようになること。

3. 授業計画

前期	
1	テレビ番組の制作工程とその仕組み①
2	テレビ番組の制作工程とその仕組み②
3	テレビ番組の制作工程とその仕組み③
4	就活の基本① 就活スケジュール
5	就活の基本② エントリーシートとは
6	企画の立て方①
7	企画の立て方②
8	事前取材とロケハン①
9	事前取材とロケハン②
10	就活の基本③ 自己分析とは
11	就活の基本④ 自己分析とは
12	粗構成の考え方①
13	粗構成の考え方②
14	就活の基本⑤ 志望理由の書き方
15	就活の基本⑥ 志望理由の書き方
16	撮影—演出面から見た手法①
17	撮影—演出面から見た手法②
後期	
1	就活の基本⑦ 面接の練習
2	就活の基本⑧ 面接の練習
3	本構成を考える①
4	本構成を考える②
5	就活の基本⑨ グループディスカッションの練習

6	就活の基本⑩ グループディスカッションの練習
7	編集の技法①
8	編集の技法②
9	視聴率の基本①
1 0	視聴率の基本②
1 1	YouTube 動画制作実習①
1 2	YouTube 動画制作実習②
1 3	YouTube 動画制作実習③
1 4	就活の基本⑪ 就職先の探し方
1 5	就活の基本⑫ 履歴書の書き方
1 6	YouTube 動画制作実習④
1 7	YouTube 動画制作実習⑤

科目の教育目標・授業計画「2024年度」					学 科 名	TVディレクター学科	
科目番号	0214	科 目 名	ディレクター実技講座Ⅰ			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	専門	担当講師	環真吾 金田和樹 梶田一郎			履修区分	選択必修
開講学年	1 年	開講学期	通年	単位数	4	授業形態.	演習
教 科 書				参考書			
成績評価	レポート50%、平常点や授業への貢献度50%。						

1. 授業概要

ディレクターとは、番組を通して人を笑わせたり、泣かせたり、考えさせたりすることが仕事です。何十万人、何百万人という人々の心をつかみ、揺さぶり、動かすことが仕事です。そのためには熱い情熱と多くの知識や技術が求められます。それに基づいてカメラマンや照明・音声など大勢のスタッフはもちろんのこと、俳優やタレントなどの出演者にも的確な指示を出さなくてはなりません。では具体的にディレクターになるためにはどんなことが必要になるのでしょうか。その基本的な考え方からスタートし、ディレクター必須の様々な知識・技術までを通年で徹底的に学んでいきます。企画の立て方・台本の作り方・カット割り・カメラワーク・演出法・編集法など、これからディレクターとして活躍するために必要な基礎を分かりやすく体得してもらう講座です。

2. 到達目標

ディレクター必須の様々な知識・技術（企画・台本・カット割り・カメラワーク・演出法・編集法など）を体得すること。

3. 授業計画

前期	
1	<u>ディレクターはこんなに面白い:でもディレクターって何?入門編</u> ディレクターとは何をする仕事か、様々な映像を見て基礎を知ろう①
2	ディレクターとは何をする仕事か、様々な映像を見て基礎を知ろう②
3	ディレクターとは何をする仕事か、様々な映像を見て基礎を知ろう③
4	ディレクターとは何をする仕事か、様々な映像を見て基礎を知ろう④
5	<u>狙いを知れ:テレビの様々なジャンル・構造を知り、実際の番組の各演出を見つけてみよう</u> 演出とは何か?実際の番組映像を見て、その狙いや技術を感じ、知り、理解しよう①
6	演出とは何か?実際の番組映像を見て、その狙いや技術を感じ、知り、理解しよう②
7	演出とは何か?実際の番組映像を見て、その狙いや技術を感じ、知り、理解しよう③
8	演出とは何か?実際の番組映像を見て、その狙いや技術を感じ、知り、理解しよう④
9	<u>ディレクターとして最低限知っておかなければならないこと:基礎実技を身に付けよう</u> 企画発想、企画書作成、画コンテ、カット割り、撮影、編集、音付け等の基礎実技を学ぼう①
10	企画発想、企画書作成、画コンテ、カット割り、撮影、編集、音付け等の基礎実技を学ぼう②
11	企画発想、企画書作成、画コンテ、カット割り、撮影、編集、音付け等の基礎実技を学ぼう③
12	企画発想、企画書作成、画コンテ、カット割り、撮影、編集、音付け等の基礎実技を学ぼう④
13	<u>では自分で具体的に演出をしてみよう:ディレクター演出実践編→自分に何が足りないかを知ろう</u> ディレクター演出実践入門:ショート動画を撮って実際に基礎的な構成・演出してみよう①
14	ディレクター演出実践入門:ショート動画を撮って実際に基礎的な構成・演出してみよう②
15	ディレクター演出実践入門:ショート動画を撮って実際に基礎的な構成・演出してみよう③
16	ディレクター演出実践入門:ショート動画を撮って実際に基礎的な構成・演出してみよう④
17	前期総復習(ディレクター入門編がきちんと身についたか総点検しましょう)
後期	
1	<u>基礎実践編:実際の番組から具体的な演出技法を学び、身に付けよう(情報バラエティ・ロケ番組編)</u> 実際の情報バラエティ・ロケ番組から演出技法の基礎を学び、身に付けよう①

2	実際の情報バラエティ・ロケ番組から演出技法の基礎を学び、身に付けよう②
3	実際の情報バラエティ・ロケ番組から演出技法の基礎を学び、身に付けよう③
4	実際の情報バラエティ・ロケ番組から演出技法の基礎を学び、身に付けよう④
5	<u>基礎実践編:実際の番組から具体的な演出技法を学び、身に付けよう(映画・ドラマ・CM 編)</u> 実際の映画・ドラマ・CM から演出技法の基礎を学び、身に付けよう①
6	実際の映画・ドラマ・CM から演出技法の基礎を学び、身に付けよう②
7	実際の映画・ドラマ・CM から演出技法の基礎を学び、身に付けよう③
8	実際の映画・ドラマ・CM から演出技法の基礎を学び、身に付けよう④
9	<u>基礎実践編:実際の番組から具体的な演出技法を学ぼう(ドキュメンタリー編)</u> 実際のドキュメンタリーから演出技法の基礎を学び、身に付けよう①
1 0	実際のドキュメンタリーから演出技法の基礎を学び、身に付けよう②
1 1	実際のドキュメンタリーから演出技法の基礎を学び、身に付けよう③
1 2	実際のドキュメンタリーから演出技法の基礎を学び、身に付けよう④
1 3	<u>己を知る:どんなディレクターになりたいか? 自分に向いている演出の方向性を探ろう</u> 何を目指すか:ディレクターとしての自分の適性・方向性・やりたいことを探す具体的な実技作業①
1 4	何を目指すか:ディレクターとしての自分の適性・方向性・やりたいことを探す具体的な実技作業②
1 5	何を目指すか:ディレクターとしての自分の適性・方向性・やりたいことを探す具体的な実技作業③
1 6	何を目指すか:ディレクターとしての自分の適性・方向性・やりたいことを探す具体的な実技作業④
1 7	総復習・総点検(ディレクターの基礎は身に付きましたか。2 年生に向けての準備)をしましょう。

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	TVディレクター学科
科目番号	0217	科目名	ドラマ制作実習			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	専門	担当講師	金田和樹 太田雅晴 阿部雄一			履修区分	選択必修
開講学年	2 年	開講学期	通年	単位数	6	授業形態	実習
教 科 書	なし			参考書			
成績評価	提出課題 60% 授業姿勢 20% 出席 20%						

1. 授業概要

ドラマ制作の基礎を学ぶことにより、ドラマのみならずバラエティーの再現シーンなども含め、いろいろな番組制作に対応できるような考え方・手法を身につける。チームの中で役割を果たすことや、状況に応じての対応など、実践的に行動することを意識しつつ、さらに、発展させて考えられるようになる。そして、社会に出ていく上で「企業が欲しい人材・ともに働きたい仲間」とは何か、特にテレビ制作者として何を大切に、どんなことに気を付け、今後を見据えていくか、自ら考察できるよう導く。
--

2. 到達目標

ドラマを通じ、社会人になった時に制作現場で自ら進んで判断・行動できるように、経験を積む。
--

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス。ドラマとは何か、考え方、総論。
2	ドラマの企画書。発想。アピールポイント。
3	企画書に込められた制作者の思い・熱意。
4	企画書。表紙の作り方。企画意図について。リサーチ。
5	企画書。登場人物の掘り下げ。履歴書作り。
6	企画書。ストーリーの書き方。
7	企画書講評。
8	台本作成。柱の立て方。
9	台本作成。セリフとト書き。
10	台本作成。主観と客観。
11	コンテ作成。サイズとアングル。
12	コンテ作成。アクションカット。
13	コンテ作成。ドリー、ズーム、パンワーク。
14	編集。基本のつなぎ。ズリ上げ、ズリ下げ。
15	編集。様々な手法。
16	MA、音楽、効果音。フェードとカット。
17	前期ふりかえり。
後期	
1	ディレクター論、演出プラン、判断と統率。
2	スタッフ論、制作スケジュール、予算や許可申請。
3	美打ち、ロケハンについて。
4	ミニドラマ企画、役割分担。
5	ミニドラマ台本作成1。
6	ミニドラマ台本作成2。
7	ミニドラマロケハン・美打ち。
8	ミニドラマリハーサル。
9	ミニドラマ撮影。
10	ミニドラマ編集。講評。

1 1	卒業制作ドラマ 1。
1 2	卒業制作ドラマ 2。
1 3	卒業制作ドラマ 3。
1 4	卒業制作ドラマ 4。
1 5	卒業制作ドラマ 5。
1 6	卒業制作ドラマ 6。
1 7	卒業制作ドラマ講評。ドラマ制作経験を生かすために、まとめ。

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	I Tエンジニア学科
科目番号	207	科 目 名	プログラミングⅡ			科目区分	専任 実務家教員
科 目 群	専門科目	担当講師	鳥羽弘康			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	後期	単位数	6	授業形態	演習
教 科 書	Python プログラミング			参考書			
成績評価	中間試験 35%、期末試験 35%、確認テスト 20%、学習の取り組み(欠席、遅刻、受講態度)10%						

1. 授業概要

プログラミング言語として Python を選び、Python の文法の内、関数の応用としてイテレータ、ジェネレータ、デコレータを座学を通して学ぶ他、クラスの定義、メソッドの定義、クラスの継承を座学を通して学び、簡単なプログラムを作成する演習を通して、オブジェクト指向プログラミングの基礎を習得する。

2. 到達目標

Python の文法の内、関数の応用としてイテレータ、ジェネレータ、デコレータを理解し説明できる。クラスの定義、メソッドの定義、クラスの継承を理解し、オブジェクト指向プログラミングの基礎を説明できる。Python のいくつかの便利なライブラリの内容を理解し説明できる。データ分析に利用される主要な外部ライブラリをインストールし、これらを利用する Python のモジュールを作成し、実行できる。基本情報処理技術者試験の Python の簡単な問題を解くことができる水準の知識を身につける。

3. 授業計画

後期	
1	関数（2） ローカル変数とグローバル変数、関数の引数
2	関数（3） 関数オブジェクト、イテレータとジェネレータ
3	関数（4） デコレータ
4	クラス（1）クラス・オブジェクトとは、クラスとインスタンス、メソッドの定義
5	クラス（2）インスタンスを必要としない変数とメソッド、継承
6	クラス（3）多重継承
7	クラス（4）特殊メソッド、モジュール
8	中間試験 第1回から第7回の講義内容から出題する
9	ファイル操作 ファイル操作の基本、ファイルへの書き込み
10	モジュールを利用したファイル操作
11	例外処理 構文エラーと例外、try except 文
12	ライブラリの利用 ライブラリとは、日時を扱うライブラリ
13	数学計算を扱うライブラリ math モジュール、random モジュール
14	外部ライブラリのインストール インストール方法と外部ライブラリを活用した計算
15	グラフ描画（1） 外部ライブラリを利用したグラフ描画
16	グラフ描画（2） グラフ描画演習
17	期末試験 第9回から第16回の講義内容から出題する

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	I Tエンジニア学科
科目番号	301	科 目 名	モバイルプログラミング			科目区分	専任 実務家教員
科 目 群	総合科目	担当講師	鳥羽弘康			履修区分	選択必修
開講学年	2 年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	実習
教 科 書	Kivy プログラミング			参考書 Python プログラミング			
成績評価	中間試験 35%、期末試験 35%、確認テスト 20%、学習の取り組み(欠席、遅刻、受講態度)10%						

1. 授業概要

クロスプラットフォーム GUI フレームワーク Kivy を利用してモバイルアプリケーションを作成し、モバイルデバイスで動作するアプリケーション作成法の基礎を学ぶ

2. 到達目標

モバイルデバイスで動作するアプリケーションの作成法を理解する

3. 授業計画

前期	
1	モバイルプログラミング概要、Python インタプリタの使用法
2	Python の文法概要、Python モジュールの構造、Python モジュールの作成、モジュールの実行
3	クラスの概要、データの宣言法、データの宣言、数値を扱う数値型と演算
4	クラスの構成要素、文字型の演算、コンソール窓へのデータの表示
5	クラスのメソッド、コレクションの演算、コレクションへのデータ設定、キーボード入力
6	条件分岐、比較演算子と論理演算子、if 構文、if else 構文、if elif else 構文
7	中間試験 第1回から第6回までの講義内容を試験範囲とする
8	繰り返し処理の流れの制御、for 構文とイテレータによる繰り返し処理
9	文字列・リスト・タプルを使う繰り返し処理、内包表記によるコレクションの生成
10	関数の定義と呼び出し方、無名関数、引数と変数のスコープ
11	クラスの定義、クラス変数とインスタンス変数の定義と、メソッドの定義
12	Kivy 概要、Kivy プログラム作法、Kivy 言語による GUI の設定
13	Kivy を活用した Windows 上での画面設計と、アプリケーションのプログラミング
14	Kivy を活用した Windows 上でのアプリケーションのプログラミングと、Windows 上での動作テスト
15	Buildozer、xcode と Kivy-iOS を用いた MacOS 上での iPhone アプリケーション変換
16	MacOS 上の iPhone エミュレータでの iPhone アプリケーション動作テスト
17	iPhone へのアプリケーションの転送とリリース、Apple Store への登録法

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	IT エンジニア学科
科目番号	303	科 目 名	新技術演習			科目区分	兼任 実務家教員
科 目 群	専門科目	担当講師	山中 修			履修区分	選択必修
開講学年	2 年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	演習
教 科 書	なし			参考書			
成績評価	平常点 20%、定期試験 30%・提出課題 50%						

1. 授業概要

3D ソフトである MAYA を使って 3D ソフトの基本的な使い方を習得する

2. 到達目標

3D モデリング技術の習得と光効果などを使った 3D 空間の作成

3. 授業計画

前期	
1	3D ソフトの紹介
2	Basic：基本操作→インタフェースの名称と役割を知る
3	Basic：基本オブジェクトの作成および編集方法（移動、拡大、回転など）
4	Basic：基本オブジェクトの組み合わせで立体オブジェクトを作る（動物や車など）
5	Basic：4 の続き演習および制作物講評
6	ポリゴンモデリングの実際：イントロ（コンポーネント要素説明ほか）
7	ポリゴンモデリングの実際：押し出しなどの基本操作
8	課題作成実習 1：
9	課題作成実習 2：
10	ポリゴンモデリング：制作物および各自アドバイス
11	キャラクター制作実習：イントロ
12	キャラクター制作手順解説：スケッチ方法など
13	キャラクター課題制作実習 1
14	キャラクター課題実習 2
15	キャラクター制作物：講評および各自アドバイス
16	キャラクター制作物：講評および各自アドバイス
17	総評

科目の教育目標・授業計画「2024年度」					学 科 名	電気電子学科	
科目番号	0204	科目名	電子回路		科目区分	専任 実務家教員	
科目群	電気電子理論	担当講師	山口 孝博		履修区分	必修	
開講学年	1	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教科書	電子回路概論. 実教出版			参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80%、平常点（課題提出）や授業への貢献度 20%						

1. 授業概要

半導体の基礎、電子回路の基本的な素子とそれらを利用したバイアス回路について学習し、さらに各種増幅回路や発信回路、変復調回路、パルス回路、電源回路等についても学習する。担当教員は配電盤、キュービクル関連会社で設計課での勤務経験のあり、電子回路に関する全般的な知識を活かした解説をする。

2. 到達目標

半導体素子の役割を理解し、増幅回路の設計ができるようになる。

3. 授業計画

前期	
1	半導体と原子、自由電子と正孔の働き、半導体の種類、キャリアのふるまい、 $p-n$ 接合
2	$p-n$ 接合ダイオード、ダイオード回路、ダイオードの最大定格、ダイオードの利用
3	トランジスタの基本構造、トランジスタの基本動作
4	トランジスタの静特性、トランジスタの最大定格
5	接合形FET、MOS FET、サイリスタ、ホトトランジスタ、その他の半導体素子
6	集積回路（IC）の製造と分類、集積回路の特徴と分類
7	増幅の原理、増幅器の分類
8	トランジスタによる増幅の原理、トランジスタの基本増幅回路
9	トランジスタの h パラメータと小信号等価回路
10	中間試験
11	バイアス回路の安定度、バイアス回路の種類と特徴
12	トランジスタによる小信号増幅回路の基本特性
13	トランジスタによる小信号増幅回路のバイアス回路の設計
14	電圧増幅度と入出力インピーダンス、結合コンデンサとバイパスコンデンサの計算
15	接合形FETの小信号基本増幅回路と等価回路、バイアス回路、増幅器のバイアスと回路特性
16	負帰還の原理、エミッタ抵抗による負帰還、エミッタホロワ、多段増幅回路の負帰還
17	差動増幅回路の概要、演算増幅器の特性と等価回路、演算増幅器の基本的な使いかた
18	電力増幅回路の基礎、A級シングル電力増幅回路、B級プッシュプル電力増幅回路
19	高周波増幅の基礎、高周波増幅回路の特性
20	期末試験
後期	
1	発振回路のなりたち、発振回路の原理、発振回路の分類
2	反結合発振回路、ハートレー発振回路、コルピッツ発振回路
3	ウィーンブリッジ形発振回路の原理と実際例、CR位相形発振回路
4	水晶振動子、水晶発振回路の種類と特徴、水晶発振回路の実際例
5	VCOの原理、PLL回路
6	変調・復調の意味、変調・復調の種類
7	振幅変調（AM）の基礎、振幅変調波の電力、振幅変調回路、振幅変調波の復調
8	周波数変調（FM）、周波数変調波の復調
9	位相変調（PM）・復調、パルス変調の種類
10	中間試験
11	パルス波形、パルスの応答
12	非安定マルチバイブレータ、単安定マルチバイブレータ
13	双安定マルチバイブレータ、ICを用いたマルチバイブレータ
14	クリップ、リミタ
15	スライサ、シュミットトリガ回路
16	制御形電源回路の構成、変圧回路、いろいろな整流回路
17	コンデンサ平滑回路、電源回路の諸特性
18	直列制御安定化回路、3端子レギュレータ
19	スイッチング制御、チョップ形スイッチング電源回路、制御形電源回路との比較
20	期末試験

科目の教育目標・授業計画「2024年度」					学 科 名	電気電子学科	
科目番号	0205	科 目 名	デジタル回路		科目区分	実務家教員	
科 目 群	電気電子理論	担当講師	山口 孝博		履修区分	選択必修	
開講学年	2	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	デジタル回路. コロナ社			参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80%、平常点（課題提出）や授業への貢献度 20%						

1. 授業概要

デジタル回路とストアードプログラム方式のコンピュータシステムの基本的事項を理解する。担当教員は配電盤、キュービクル関連会社で設計課での勤務経験のあり、デジタル回路に関する全般的な知識を活かした解説をする。

2. 到達目標

人工知能（AI）を動かしているデジタル回路技術を理解する。

3. 授業計画

前期	
1	コンピュータのなりたち
2	2進数、10進数、16進数
3	論理代数（1）
4	論理代数（2）
5	2進数の加減算
6	論理回路
7	加算器
8	減算器
9	演算回路
10	桁上げ先見加算器
11	フリップフロップ回路
12	カウンタ回路
13	レジスタ回路
14	メモリ
15	状態と状態遷移
16	順序回路
17	乗算器の制御回路
18	ソフトウェアとハードウェアのインターフェース、コンピュータの命令
19	命令セットの例
20	Cプログラムの命令への展開
後期	
1	基本論理素子と論理回路記号、論理回路の設計
2	組み合わせ回路の設計手順、AND・OR 2段回路とOR・AND 2段回路
3	ブール代数の完全系、NAND 2段回路、NOR 2段回路
4	ファンインとファンアウト、ファンインに制限のある場合の組み合わせ回路の構成法
5	組み合わせ回路と順序回路の違い、順序回路の表し方
6	順序回路の定義、状態割り当て
7	フリップフロップの基礎、RSフリップフロップ、クロック付RSフリップフロップ
8	JKフリップフロップ、Dフリップフロップ、Tフリップフロップ、動作の解析
9	順序回路の設計手順、フリップフロップの励起表の作成、励起表を用いた順序回路の設計
10	中間試験
11	同期式カウンタ
12	非同期式カウンタ
13	レジスタ
14	基本加算回路
15	多桁の加算回路
16	減算回路と加減算回路
17	比較回路
18	エンコーダとデコーダ

19	マルチプレクサとデマルチプレクサ
20	期末試験

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	電気電子学科
科目番号	0402	科目名	パワーエレクトロニクス			科目区分	専任 実務家教員
科目群	電気利用伝送処理	担当講師	鈴木 常幸			履修区分	選択必修
開講学年	2	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教科書	電気機器概論. 実教出版			参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80%、平常点（課題提出）や授業への貢献度 20%						

1. 授業概要

パワー半導体デバイスの種類と電力変換装置の原理について学ぶ。担当教員は半導体設計製造メーカーでLCD 駆動用昇圧回路の論理制御回路設計における経験から、直流チョップの論理制御回路設計経験を活かした講義を行う。

2. 到達目標

電力変換回路の基本動作を回路図と電圧・電流波形と関連付けて理解する。

3. 授業計画

後期	
1	パワーエレクトロニクスとパワー半導体デバイス(1) 電力変換の原理
2	パワーエレクトロニクスとパワー半導体デバイス(2) 半導体パルプデバイスとその性質
3	整流回路(1) 単相半波整流回路
4	整流回路(2) 単相全波整流回路
5	整流回路(3) 三相全波整流回路、交流電力調整回路
6	直流チョップ(1) 直流降圧チョップ
7	直流チョップ(2) 直流昇圧チョップ
8	直流チョップ(3) 直流昇降圧チョップ
9	直流チョップ(4) 利用(直流電動機制御)
10	中間試験
11	インバータ(1) 原理と動作 1
12	インバータ(2) 原理と動作 2
13	インバータ(3) 出力電圧調整 1
14	インバータ(4) 出力電圧調整 2
15	インバータ(5) 利用
16	パワー半導体デバイスの転流とスナバ回路(1) デバイス転流とスナバ回路
17	パワー半導体デバイスの転流とスナバ回路(2) インパルス転流
18	パワー半導体デバイスの転流とスナバ回路(3) 他励転流
19	パワー半導体デバイスの転流とスナバ回路(4) 負荷転流
20	期末試験

科目の教育目標・授業計画「2024 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	0304	科 目 名	都市計画			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	建築計画	担当講師	小川 貴之			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	『都市計画とまちづくりがわかる本』伊藤雅春他 彰国社			教材・参考書：随時プリントを配布			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）、平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

歴史的、技術的な側面から、都市計画・まちづくりの基本を学ぶ。担当教員は、都市計画マスタープラン策定委員に関わった経験があり、都市計画、まちづくりの実務経験に基づき実際の業務に近い授業を展開する。

2. 到達目標

事例を通して、都市計画、まちづくりの手法や法規的制約などの知識が習得できる。
講義形式を基本とするが、K J法を用いたワークショップを行うなど実用的な学習も体験する。

3. 授業計画

前期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	都市とは何か。都市計画、まちづくりの定義
3	世界の都市計画史と思潮-1 古代～近世まで
4	日本の都市計画史と思潮-2 近代～現代まで
5	日本の都市計画史と思潮
6	都市計画史まとめ
7	都市計画の枠組み-1 都市計画と関連法規
8	都市計画の枠組み-2 都市計画法の位置づけと体系
9	都市計画の枠組み-3 都市のマスタープランについて
10	都市計画の枠組み-4 区画整理事業、開発許可制度について
11	都市計画の枠組み-5 地区計画、建築協定について
12	関連法規事例紹介、まとめ
13	諸外国の都市計画制度
14	参加のデザインとまちづくり 事例紹介
15	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-1
16	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-2
17	テーマ別まちづくり-1
18	テーマ別まちづくり-2

科目の教育目標・授業計画 「2023 年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	0801	科 目 名	設計製図 I			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	設計製図	担当講師	星裕一郎 他			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	8	授業形態	実習
教 科 書	定番 建築製図			教材・参考書 参考図面を適宜配布			
成績評価	全課題提出による評価 1 0 0 %						

1. 授業概要

製図の基本となる線の引き方、線の種類や太さ、製図記号のルールを学習する。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

2. 到達目標

各種図面の表現方法を木造・RC 造ごとにコピーとオリジナル設計をすることで修得する。
課題に基づいた実習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実務に近いプロセスを経験する課題を行う。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション（用具の使い方など）
2	課題－1：「製図の基本」線，文字，記号の練習
3	「製図の基本」線，文字，記号の練習
4	「製図の基本」線，文字，記号の練習
5	課題－2：製図の表現
6	製図の表現
7	製図の表現
8	課題－3：RC の演習 その1 店舗
9	RC の演習 その1
10	RC の演習 その1
11	RC の演習 その1
12	課題－4：RC の演習 その2 住宅
13	RC の演習 その2
14	RC の演習 その2
15	課題－5：RC カフェの設計 その1
16	RC カフェの設計 その1
17	RC カフェの設計 その1
18	RC カフェの設計 その1
後期	
1	課題－6：木造住宅のコピー その1
2	木造住宅のコピー その1
3	木造住宅のコピー その1
4	木造住宅のコピー その1
5	木造住宅のコピー その1
6	課題－7：木造住宅のコピー その2
7	木造住宅のコピー その2
8	木造住宅のコピー その2
9	木造住宅のコピー その2
10	木造住宅のコピー その2
11	木造住宅のコピー その2

1 2	課題－ 8 ：木造住宅兼店舗の設計
1 3	木造住宅兼店舗の設計
1 4	木造住宅兼店舗の設計
1 5	木造住宅兼店舗の設計
1 6	木造住宅兼店舗の設計
1 7	木造住宅兼店舗の設計
1 8	木造住宅兼店舗の設計

科目の教育目標・授業計画「2024 年度」					学 科 名	建築学科	
科目番号	0802	科 目 名	設計製図Ⅱ			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	設計製図	担当講師	小川貴之 他			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	実習
教 科 書	建築製図			教材・参考書 プリント・写真・建築雑誌			
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。						

1. 授業概要

各課題を通して、製図方法、技術的課題、空間の把握を学ぶ。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

2. 到達目標

コンセプトから具体的建築へと展開する設計のプロセスを身につける。
課題に基づいた演習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実際の実務に近いプロセスを経験する課題を行う。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション 講師事例紹介、構造別講義
2	第1課題「集まって住む（集合住宅）」 課題説明、事例調査、敷地模型制作
3	事例発表、エスキスチェック
4	エスキスチェック
5	作図1（平面図・断面図・立面図）
6	作図2（平面図・断面図・立面図）
7	作図3（まとめ）
8	プレゼンテーション準備
9	発表
10	第2課題「保育園の設計」 課題説明、事例調査
11	事例発表、エスキスチェック
12	エスキスチェック
13	エスキスチェック
14	作図1（平面図・断面図・立面図）
15	作図2（平面図・断面図・立面図）
16	作図3（まとめ）
17	プレゼンテーション準備
18	発表

科目の教育目標・授業計画「2024 年度」						学 科 名	建築学科
科目番号	1001	科 目 名	パースペクティブ			科目区分	兼任・実務家教員
科 目 群	造形基礎	担当講師	牟禮智絵子 他			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	演習
教 科 書	基本・建築製図と表現方法			教材・参考書 プリント			
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。						

1. 授業概要

軸測投影法（アクソメトリック）、透視図法（1 消点透視法、2 消点透視法）の表現方法を学ぶ。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいたプレゼンテーション手法を指導する。

2. 到達目標

視覚表現による他者とのコミュニケーション力の修得する
課題に基づいた演習とするが、有名建築を題材とし、クライアントへのプレゼンテーションに活かせる手法を学ぶ。

3. 授業計画

前期	
1	はじめに（自己紹介、授業内容、目標）
2	建築の仕事、パースの仕事、スケッチ演習
3	スケッチ演習発表
4	軸測投影法（アクソメトリック）・ブロック 1
5	軸測投影法（アクソメトリック）・ブロック 2
6	軸測投影法（アクソメトリック）・立方体 1
7	軸測投影法（アクソメトリック）・立方体 2
8	軸測投影法（アクソメトリック）・室内
9	色・着彩（1）
1 0	色・着彩（2）
1 1	軸測投影法（課題）
1 2	軸測投影法（課題）
1 3	軸測投影法（課題）
1 4	軸測投影法（課題）
1 5	軸測投影法（課題）
1 6	色・着彩（1）
1 7	色・着彩（2）
1 8	軸測投影法・まとめ
後期	
1	夏休み課題（講評会）
2	1 消点透視法（パース） 1
3	1 消点透視法（パース） 2
4	2 消点透視法（パース） 1
5	2 消点透視法（パース） 2
6	2 消点透視法（課題） ビル
7	2 消点透視法（課題） ビル
8	2 消点透視法（課題） ビル
9	2 消点透視法（課題） ビル

1 0	2 消点透視法（課題）ビル（着彩）
1 1	2 消点透視法（課題）ビル（着彩）
1 2	2 消点透視法（応用） 1
1 3	2 消点透視法（応用） 2
1 4	2 消点透視法（応用） 3
1 5	2 消点透視法（応用） 4
1 6	簡易パースの演習 1
1 7	簡易パースの演習 2
1 8	消点透視法まとめ

科目の教育目標・授業計画「2024 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0204	科 目 名	都市計画			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	建築計画	担当講師	小川 貴之			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	『都市計画とまちづくりがわかる本』伊藤雅泰他 彰国社				教材・参考書：随時プリントを配布		
成績評価	試験（中間試験、期末試験）、平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

歴史的、技術的な側面から、都市計画・まちづくりの基本を学ぶ。

2. 到達目標

事例を通して、都市計画、まちづくりの手法や法規的制約などの知識が習得できる。
講義形式を基本とするが、K J法を用いたワークショップを行うなど実用的な学習も体験する。
担当教員は、都市計画マスタープラン策定委員に関わった経験があり、都市計画、まちづくりの実務経験に基づき実際の業務に近い授業を展開する。

3. 授業計画

後期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	都市とは何か。都市計画、まちづくりの定義
3	世界の都市計画史と思潮-1 古代～近世まで
4	日本の都市計画史と思潮-2 近代～現代まで
5	日本の都市計画史と思潮
6	都市計画史まとめ
7	都市計画の枠組み-1 都市計画と関連法規
8	都市計画の枠組み-2 都市計画法の位置づけと体系
9	都市計画の枠組み-3 都市のマスタープランについて
10	都市計画の枠組み-4 区画整理事業、開発許可制度について
11	都市計画の枠組み-5 地区計画、建築協定について
12	関連法規事例紹介、まとめ
13	諸外国の都市計画制度
14	参加のデザインとまちづくり 事例紹介
15	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-1
16	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-2
17	テーマ別まちづくり-1
18	テーマ別まちづくり-2

科目の教育目標・授業計画「2024 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0701	科 目 名	設計製図 I			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	設計製図	担当講師	星裕一郎 他			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	8	授業形態	実習
教 科 書	『建築製図 基本の基本』学芸出版社			教材・参考書：プリント配布、必携建築資料			
成績評価	課題図面全提出による評価 1 0 0 %						

1. 授業概要

製図の基本となる線の引き方、線の種類や太さ、製図記号のルールを学習する。

2. 到達目標

各種図面の表現方法を木造・RC 造ごとにコピーとオリジナル設計をすることで修得する。
課題に基づいた実習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実務に近いプロセスを経験する課題を行う。
担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション（用具の使い方など）
2	課題－1：「製図の基本」線，文字，記号の練習
3	「製図の基本」線，文字，記号の練習
4	「製図の基本」線，文字，記号の練習
5	課題－2：製図の表現
6	製図の表現
7	製図の表現
8	課題－3：RC の演習 その1 店舗
9	RC の演習 その1
10	RC の演習 その1
11	RC の演習 その1
12	課題－4：RC の演習 その2 住宅
13	RC の演習 その2
14	RC の演習 その2
15	課題－5：RC カフェの設計 その1
16	RC カフェの設計 その1
17	RC カフェの設計 その1
18	RC カフェの設計 その1
後期	
1	課題－6：木造住宅のコピー その1
2	木造住宅のコピー その1
3	木造住宅のコピー その1
4	木造住宅のコピー その1
5	木造住宅のコピー その1
6	課題－7：木造住宅のコピー その2
7	木造住宅のコピー その2
8	木造住宅のコピー その2
9	木造住宅のコピー その2
10	木造住宅のコピー その2

1 1	木造住宅のコピー その2
1 2	課題－8：木造住宅兼店舗の設計
1 3	木造住宅兼店舗の設計
1 4	木造住宅兼店舗の設計
1 5	木造住宅兼店舗の設計
1 6	木造住宅兼店舗の設計
1 7	木造住宅兼店舗の設計
1 8	木造住宅兼店舗の設計

科目の教育目標・授業計画「2024 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0702	科 目 名	設計製図Ⅱ			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	設計製図	担当講師	牟禮 智恵子 他			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	実習
教 科 書	建築製図			教材・参考書 プリント・写真・建築雑誌			
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。						

1. 授業概要

課題を通して、製図方法、技術的課題、空間の把握を学ぶ。

2. 到達目標

コンセプトから具体的建築へと展開する設計のプロセスを身につける。 課題に基づいた演習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実際の実務に近いプロセスを経験する課題を行う。 担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション 講師事例紹介、構造別講義
2	第1 課題「集まって住む（集合住宅）」 課題説明、事例調査、敷地模型制作
3	事例発表、エスキスチェック
4	エスキスチェック
5	エスキスチェック
6	エスキスチェック
7	中間発表
8	プレゼンテーション準備
9	作図1（平面図・断面図・立面図）
10	作図2（平面図・断面図・立面図）
11	作図3（平面図・断面図・立面図）
12	作図4（まとめ）
13	プレゼンテーション準備1（作図、模型製作など）
14	プレゼンテーション準備2（作図、模型製作など）
15	プレゼンテーション準備3（作図、模型製作など）
16	プレゼンテーション準備4（作図、模型製作など）
17	プレゼンテーション準備5（作図、模型製作など）
18	発表

科目の教育目標・授業計画「2024 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0901	科 目 名	パースペクティブ			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	造形基礎	担当講師	牟禮 智絵子 他			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	演習
教 科 書	基本・建築製図と表現方法			教材・参考書 プリント			
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。						

1. 授業概要

軸測投影法（アクソメトリック）、透視図法（1 消点透視法、2 消点透視法）の表現方法を学ぶ。

2. 到達目標

視覚表現による他者とのコミュニケーション力の修得する

課題に基づいた演習とするが、有名建築を題材とし、クライアントへのプレゼンテーションに活かせる手法を学ぶ。

担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいたプレゼンテーション手法を指導する。

3. 授業計画

前期	
1	はじめに（自己紹介、授業内容、目標）
2	建築の仕事、パースの仕事、スケッチ演習
3	スケッチ演習発表
4	軸測投影法（アクソメトリック）・ブロック 1
5	軸測投影法（アクソメトリック）・ブロック 2
6	軸測投影法（アクソメトリック）・立方体 1
7	軸測投影法（アクソメトリック）・立方体 2
8	軸測投影法（アクソメトリック）・室内
9	色・着彩（1）
10	色・着彩（2）
11	軸測投影法（課題）
12	軸測投影法（課題）
13	軸測投影法（課題）
14	軸測投影法（課題）
15	軸測投影法（課題）
16	色・着彩（1）
17	色・着彩（2）
18	軸測投影法・まとめ
後期	
1	夏休み課題（講評会）
2	1 消点透視法（パース） 1
3	1 消点透視法（パース） 2
4	2 消点透視法（パース） 1
5	2 消点透視法（パース） 2
6	2 消点透視法（課題） ビル
7	2 消点透視法（課題） ビル
8	2 消点透視法（課題） ビル
9	2 消点透視法（課題） ビル

1 0	2 消点透視法（課題）ビル（着彩）
1 1	2 消点透視法（課題）ビル（着彩）
1 2	2 消点透視法（応用） 1
1 3	2 消点透視法（応用） 2
1 4	2 消点透視法（応用） 3
1 5	2 消点透視法（応用） 4
1 6	簡易パースの演習 1
1 7	簡易パースの演習 2
1 8	消点透視法まとめ

科目の教育目標・授業計画「2024年度」					学 科 名	臨床工学科	
科目番号	6	科 目 名	化学			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	基礎分野	担当講師	山本 将人			履修区分	必修
開講学年	1年次	開講学期	前期	単位数	1	授業形態	講義
教 科 書	化学 入門編			参考書	はじめて学ぶ化学		
成績評価	試験 90%、平常点や授業への貢献度 10%						

1. 授業概要

原子、分子の構造やモル濃度の計算、浸透圧の計算を身につける。

2. 到達目標

原子量と分子量、モル濃度や浸透圧の計算を修得し、治療に必要な基礎知識を修得する。
--

3. 授業計画

前期	
1	イントロダクション
2	周期表、物質の構成
3	原子の構造
4	電子配置
5	イオン・希ガス・陽イオン
6	イオン・陰イオン
7	原子量と分子量
8	中間試験
9	テスト返却／解答解説
10	気体の体積・%濃度
11	モル濃度・当量濃度
12	浸透圧濃度
13	濃度計算・換算法
14	期末試験
15	解答解説・まとめ

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	臨床工学科
科目番号	8	科 目 名	物理学・化学実習			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	基礎分野	担当講師	田口翔太郎、三堀雅弥、山本将人			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	実習
教 科 書	実習書を配布			参考書	なし		
成績評価	レポート 90%、発表評価 10%						

1. 授業概要

授業で学ぶ化学や物理の知識を実習を通して理解する。

2. 到達目標

授業で学んだ公式や原理を実習を通して理解する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	オリエンテーション
3	化学実習テーマ①（化学実験機材の使い方）
4	化学実習テーマ①（化学実験機材の使い方）
5	化学実習テーマ②（中和滴定）
6	化学実習テーマ②（中和滴定）
7	化学実習テーマ③（中和熱、溶解熱、反応熱）
8	化学実習テーマ③（中和熱、溶解熱、反応熱）
9	化学実習テーマ④（沈殿滴定）
10	化学実習テーマ④（沈殿滴定）
11	物理実習テーマ①（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
12	物理実習テーマ①（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
13	物理実習テーマ②（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
14	物理実習テーマ②（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
15	物理実習テーマ③（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
16	物理実習テーマ③（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
17	物理実習テーマ④（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
18	物理実習テーマ④（力と加速度、振り子、ヤング率、光学実験）※毎週実習テーマ変更
19	発表準備
20	発表準備
21	発表準備
22	発表準備
23	実習内容発表 1
24	実習内容発表 2
25	実習内容発表 3
26	実習内容発表 4

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	臨床工学科
科目番号	27	科 目 名	電気工学実習			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	専門基礎	担当講師	三堀雅弥、田口翔太郎、沢田雄太			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	1 単位	授業形態	実習
教 科 書	実習書配布			参考書	なし		
成績評価	レポート 90%、発表評価 10%						

1. 授業概要

臨床工学に必要な電気工学の基礎について実習を通して理解する。

2. 到達目標

直流、交流、過渡現象、共振などを再現し、実習を通して理解する。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション
2	オリエンテーション
3	オシロスコープの使い方
4	オシロスコープの使い方
5	テーマ①（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
6	テーマ①（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
7	テーマ②（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
8	テーマ②（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
9	テーマ③（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
10	テーマ③（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
11	テーマ④（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
12	テーマ④（オームの法則、インピーダンス、過渡現象、共振現象）※毎週実習テーマ変更
13	発表準備①
14	発表準備①
15	発表準備②
16	発表準備②
17	実習内容発表
18	実習内容発表
19	実習内容発表
20	実習内容発表

科目の教育目標・授業計画「2024年度」					学 科 名	臨床工学科	
科目番号	46	科 目 名	血液浄化療法装置学			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	専門分野	担当講師	関根 久代			履修区分	必修
開講学年	2年次	開講学期	前期	単位数	3単位	授業形態	講義
教 科 書	透析療法パーフェクトガイド			参考書			
成績評価	試験（中間、期末）100%						

1. 授業概要

呼吸、循環、代謝に関わる生体機能代行装置の原理や操作方法、患者管理などの知識を理解する。

2. 到達目標

各装置の原理、治療方法、適応疾患、操作方法、患者管理、患者の合併症に関する知識を習得する。

3. 授業計画

血液浄化学	前期	
	1	血液浄化療法総論：血液浄化療法の臨床的意義、医療の中での位置づけ
	2	腎臓・尿路系の解剖整理
	3	腎機能検査：尿検査、血液検査、腎機能検査、簡易検査
	4	腎疾患と病態生理
	5	血液浄化療法の原理、構成
	6	ダイアライザーの性能評価
	7	透析膜：種類と特徴
	8	治療モード：HD、HF、HDF
	9	透析液の組成、浸透圧の計算
	10	抗凝固剤：種類
	11	バスキュラーアクセス：分類、穿刺
	12	前期のまとめ
	13	試験
	14	周辺機器：水処理、供給装置
	15	周辺機器：患者監視装置
	16	患者管理：糖尿病、高齢者
	17	患者管理：その他合併症
	18	患者管理：食事、栄養、薬物療法
	19	安全管理：水質
	20	安全管理：保守点検
	21	安全管理：事故、偶発症
	22	持続的血液浄化療法：適応、原理、膜性能
	23	持続的血液浄化療法：治療条件、膜の種類、特徴、装置
	24	腹膜透析
	25	アフェレーシス：血液吸着、血漿吸着
	26	アフェレーシス：PE、DFPP、CAP
	27	血液浄化療法を取り巻く環境：在宅、腎移植、長時間、短時間頻回、災害
	28	透析室運営：透析室の業務、他職種とのかかわり、
	29	最近のトピック
	30	試験（血液浄化）

科目の教育目標・授業計画「2024年度」					学 科 名	臨床工学科	
科目番号	49	科 目 名	生体機能代行技術学実習			科目区分	専任・兼任・実務家教員
科 目 群	専門分野	担当講師	関根 久代、山本 将人 他			履修区分	必修
開講学年	3年次	開講学期	前期	単位数	3単位	授業形態	実習
教 科 書	適宜プリント配布			参考書	なし		
成績評価	レポート提出 100%						

1. 授業概要

生体機能代行装置を操作することにより、座学で得られた知識をより深く理解する。

2. 到達目標

生体機能代行装置の操作、保守を実際行うことにより、技術の習得につなげる。

3. 授業計画

前期	
1	呼吸療法装置 概論
2	(1) 臨床的意義
3	(2) 呼吸系の生理と病態
4	(3) 種類・原理・構造
5	(4) 医用ガスの物性と気体力学
6	(5) 呼吸療法技術
7	(6) モードの確認
8	(7) 周辺医用機器の原理と取扱
9	(8) 患者管理
10	(9) 事故事例と安全対策
11	(10) 新しい機器・技術
12	(11) BIPAP
13	(12) 保守点検技術
14	(13) ロールプレイング
15	(14) //
16	体外循環装置 概論
17	(1) 臨床的意義
18	(2) 循環系の生理と病態
19	(3) 種類・原理・構造
20	(4) 血液物性と流体力学
21	(5) 人工肺の物理
22	(6) 体外循環技術
23	(7) 周辺医用機器の原理と取り扱い
24	(8) IABP・PCPS
25	(9) 患者管理
26	(10) 新しい機器・技術
27	(11) 人工心臓
28	(12) //
29	(13) ロールプレイング
30	(14) //
31	血液浄化装置（人工透析装置を含む）概論
32	(1) 臨床的意義

3 3	(2) 代謝の生理と病態
3 4	(3) 血液透析患者の検査データ
3 5	(4) 種類・原理・構造
3 6	(5) 流体力学と物質輸送論
3 7	(6) 血液浄化の物理
3 8	(7) 血液浄化技術
3 9	(8) 周辺医用機器の原理と取り扱い
4 0	(9) 他の血液浄化機器について
4 1	(10) 血液透析患者の一連の流れ
4 2	(11) プライミング
4 3	(12) 除水誤差測定
4 4	(13) ロールプレイング
4 5	(14) "

科目の教育目標・授業計画 「2024年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0504	科 目 名	高齢者サービス概論			科目区分	専任・実務家教員
科 目 群	介護の 基本	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	2年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	最新・介護福祉士養成講座 4「介護の 基本Ⅱ」（中央法規出版）			参考書			
成績評価	筆記試験 80%、授業貢献度 20%で評価する。						

1. 授業概要

- ・高齢者福祉の歴史の変遷と高齢者を取り巻く社会的背景を知り、支援の必要性を学ぶ。
 - ・介護保険サービスの種類やサービスの報酬・算定基準についての理解を深め、介護サービスの提供の場の特性を学ぶ。
 - ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
 - ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。
- この授業は教員の在宅介護、居宅介護支援事業所にて介護支援専門員業務の実務経験から、当該科目における高齢者福祉の変遷、介護保険制度の概要、サービスの各論等の要点を伝えるとともに、超高齢社会の課題等について実体験から講義することが出来る。

2. 到達目標

- ・介護保険制度および高齢者支援の目的を理解する。
- ・介護保険サービスの特徴、高齢者介護の実践の場を理解し、介護福祉士に求められる義務・役割を理解する。
- ・チームアプローチによるサービスを提供するために、他職種の業務の理解と連携のイメージが図れる。
- ・介護の現場の運営や経営に関心を持つ。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、方法、目標、評価 介護サービスの特性①～介護サービスの意味と特性
2	介護サービスの特性②～ケアマネジメントの意味と仕組み
3	介護サービスの特性③～介護サービスの歴史の変遷と時代背景
4	介護サービスの特性④～介護保険制度 介護保険制度の概要1
5	介護サービスの特性⑤～介護保険制度 介護保険制度の概要2
6	介護サービスの特性⑥～介護保険制度 介護保険制度の概要3
7	介護サービスの特性⑦～地域包括ケアシステム
8	介護サービス提供の場の特性①～訪問系サービス
9	介護サービス提供の場の特性②～通所・短期入所系サービス
10	介護サービス提供の場の特性③～入所・入居系サービス1
11	介護サービス提供の場の特性③～入所・入居系サービス2
12	介護サービス提供の場の特性④～地域密着型サービス1
13	介護サービス提供の場の特性④～地域密着型サービス2
14	介護サービス提供の場の特性⑤～福祉用具・住宅改修
15	試験、授業アンケート

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0801	科 目 名	介護過程Ⅰ			科目区分	兼任 実務家教員
科 目 群	介護過程	担当講師	佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 9 介護過程』第 2 版（中央法規）			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	授業の提出物とレポート 100%						

1. 授業概要

- ・利用者が安心してその人らしく生活するために必要な介護過程の意義を学ぶ。
 - ・介護過程の全体像を理解する。
 - ・自立に向けた介護過程のアセスメントから計画の立案までの展開方法を学ぶ。
 - ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
 - ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。
- この授業では教員の介護老人保健施設での介護職員として勤務し、施設ケアプランの研修や介護過程の指導を行なった経験、介護老人保健施設におけるチームアプローチの実践の経験等、授業でわかり易く実践に沿って講義を行うことが出来る。

2. 到達目標

- ・利用者の生活を支えるために、どのような介護の実践においても介護過程の展開における思考方法が基盤となることを理解する。
- ・自立に向けた介護過程の展開について、アセスメントから計画立案までの具体的な方法を理解する。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、到達目標、方法、評価について 介護過程の意義・目的：介護過程とは何か、介護過程の意義と目的／事例
2	介護過程の全体像の理解①：介護過程の全体像の理解／身近な事例で考える課題解決過程①
3	介護過程の全体像の理解②：身近な事例で考える課題解決過程②／各プロセスの理解
4	アセスメントの視点①：介護過程の展開の視点（ICF・尊厳を守るケアの実践・個別ケアの実践・生活と人生の継続・生きがいと役割・自立支援・多職種協働と連携・根拠に基づく介護）
5	アセスメントの視点②：ICFの視点に基づくアセスメントの基礎理解（ICFとは何か・ICFの特徴・構成要素）
6	アセスメントの視点③：ICF の視点に基づくアセスメントの情報収集／事例
7	アセスメントの支援④：ICF の視点に基づくアセスメントの解釈・関連付け・統合／事例
8	アセスメント①：情報収集の理解
9	アセスメント②：情報収集の実際／自立に向けた介護過程の展開（事例）
10	アセスメント③：ICF の視点に基づくアセスメント／自立に向けた介護過程の展開（事例）
11	アセスメント④：解釈・関連付け・統合／自立に向けた介護過程の展開（事例）
12	アセスメント⑤：課題と課題の優先順位／自立に向けた介護過程の展開（事例）
13	計画①：目標（介護の目的と目標・活動と参加・「できる活動」「している活動」「する活動」）／自立に向けた介護過程の展開（事例）
14	計画②：支援の内容／自立に向けた介護過程の展開（事例） 実施と評価について
15	前期まとめ

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0802	科 目 名	介護過程Ⅱ			科目区分	兼任 実務家教員
科 目 群	介護過程	担当講師	佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 9 介護過程』第 2 版（中央法規）			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	授業の提出物とレポート（事例 1 ～ 3、実習事例） 100%						

1. 授業概要

- ・事例を通して自立に向けた介護過程の展開および、利用者の状態に応じた介護過程の展開の方法を学ぶ
- ・ICFの視点に基づくアセスメントの特徴への理解を深める。
- ・根拠ある介護を実践するための専門的視点の活用と、チームアプローチの方法について学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

この授業では教員の介護老人保健施設での介護職員として勤務し、施設ケアプランの研修や介護過程の指導を行なった経験、介護老人保健施設におけるチームアプローチの実践の経験等、授業でわかり易く実践に沿って講義を行うことが出来る。

2. 到達目標

- ・テキストの事例から、自立に向けた介護過程と利用者の状態に応じた介護過程の展開方法を理解する
- ・介護過程の展開におけるチームアプローチと介護福祉士の役割を理解する。
- ・介護過程の展開方法を修得し、実際の利用者を理解し、アセスメントすることができる。

3. 授業計画

前期	
1・2	授業オリエンテーション：概要、目標、方法、評価／介護過程Ⅰの復習 利用者の状態に応じた介護過程の展開①：事例 1（情報収集）
3・4	利用者の状態に応じた介護過程の展開②：事例 1（事例の理解・アセスメントの視点） 利用者の状態に応じた介護過程の展開③：事例 1（ICF の視点に基づくアセスメント）
5・6	利用者の状態に応じた介護過程の展開④：事例 1（ICFから関連図の作成） 利用者の状態に応じた介護過程の展開⑤：事例 1（解釈・関連付け・統合・課題の明確化）
7・8	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑥：事例 1（介護計画の立案） 利用者の状態に応じた介護過程の展開⑦：事例 1（介護計画の検討）
9・10	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑧：事例 1（介護計画の発表・実施） 利用者の状態に応じた介護過程の展開⑨：事例 1（評価・まとめ）高齢者施設実習に向けて
11・12	介護過程の展開の理解①：事例 2（実習事例の振り返り） 介護過程の展開の理解②：事例 2（実習事例の報告）
13・14	介護過程の展開の理解③：事例 2（実習事例のアセスメント修正） 介護過程の展開の理解④：事例 2（実習事例の介護計画の立案）
15・16	介護過程の展開の理解⑤：事例 2（実習事例の介護計画の検討） 介護過程の展開の理解⑥：事例 2（実習事例の介護計画の発表・実施）
17・18	介護過程の展開の理解⑦：事例 2（実習事例の評価・まとめ） 介護過程とチームアプローチ①：ケアマネジメントとは

19・20	介護過程とチームアプローチ②：介護サービス計画と介護過程・サービスの種 介護過程とチームアプローチ③：多職種連携と介護福祉士の役割
21・22	介護過程とチームアプローチ④：事例3（事例の理解・情報収集） 介護過程とチームアプローチ⑤：事例3（事例の理解・アセスメントの視点）
23・24	介護過程とチームアプローチ⑥：事例3（ICFの視点に基づくアセスメント） 介護過程とチームアプローチ⑦：事例3（ICFから関連図の作成）
25・26	介護過程とチームアプローチ⑧：事例3（解釈・関連付け・統合化・課題の明確化） 介護過程とチームアプローチ⑨：事例3（解釈・関連付け・統合化・課題の明確化）
27・28	介護過程とチームアプローチ⑩：事例3（介護サービス計画の原案の作成） 介護過程とチームアプローチ⑪：事例3（介護サービス計画の原案の作成）
29・30	介護過程とチームアプローチ⑫：事例3（サービス担当者会議・介護サービス計画の決定） 介護過程とチームアプローチ⑬：事例3（サービス担当者会議・介護サービス計画の発表・まとめ）

科目の教育目標・授業計画「2024年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0803	科 目 名	介護過程Ⅲ			科目区分	兼任 実務家教員
科 目 群	介護過程	担当講師	佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 9 介護過程』第2 版（中央法規）			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	・授業の提出物、レポート（50％） 事例研究（50％）（前期 50％・後期 50％						

1. 授業概要

- ・自立に向けた介護過程の展開を踏まえ、さまざまな状態・状況に応じた介護過程の展開の方法を学ぶ
- ・介護福祉の実践におけるチームアプローチの意義と実際の方法を学ぶ。
- ・介護実習で担当した利用者の介護過程の展開を振り返り、より適切な方法について考察する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

この授業では教員の介護老人保健施設での介護職員として勤務し、施設ケアプランの研修や介護過程の指導を行なった経験、介護老人保健施設におけるチームアプローチの実践の経験等、授業でわかり易く実践に沿って講義を行うことが出来る。

2. 到達目標

- ・さまざまな状況や状態の利用者に対しても適切に介護過程を展開するための思考方法が身につく。
- ・専門職のチームの一員として、多職種との連携・協働において介護過程を実践することができる。
- ・介護実習で担当した利用者の介護過程の展開を振り返り、より適切な方法を考察することができる。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：概要、目標、方法、評価 利用者の状態に応じた介護過程の展開①：事例1（情報収集）
2	利用者の状態に応じた介護過程の展開②：事例1（事例の理解・アセスメントの視点）
3	利用者の状態に応じた介護過程の展開③：事例1（ICFの視点に基づくアセスメント）
4	利用者の状態に応じた介護過程の展開④：事例1（解釈・関連付け・統合・課題の明確化）
5	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑤：事例1（解釈・関連付け・統合・課題の明確化）
6	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑥：事例1（介護計画の立案）
7	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑦：事例1（介護計画の検討）
8	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑧：事例1（介護計画の実施・評価）
9	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑨：事例1（事例1まとめ）・実習とチームアプローチ
10	介護過程の展開の実際①：実習事例の振り返り・報告
11	介護過程の展開の実際②：事例研究の進め方（事例研究の意義・方法）
12	介護過程の展開の実際③：事例研究の進め方（研究テーマと構成の検討・文献検索）
13	介護過程の展開の実際④：事例研究の進め方（研究テーマと構成の検討・文献検索）
14	介護過程の展開の実際⑤：事例研究の作成（介護過程の展開）
15	介護過程の展開の実際⑥：事例研究の作成（介護過程の展開）
後期	
1	介護過程の展開の実際⑦：事例研究の作成（研究テーマ・はじめに・研究方法）
2	介護過程の展開の実際⑧：事例研究の作成（研究テーマ・はじめに・研究方法）
3	介護過程の展開の実際⑨：事例研究の作成（ここまでの修正・考察1の作成）
4	介護過程の展開の実際⑩：事例研究の作成（考察1の作成）

5	介護過程の展開の実際⑪：事例研究の作成（考察１の作成）
6	介護過程の展開の実際⑫：事例研究の作成（考察１の修正・考察２の作成）
7	介護過程の展開の実際⑬：事例研究の作成（考察２の作成）
8	介護過程の展開の実際⑭：事例研究の作成（考察２の作成）
9	介護過程の展開の実際⑮：事例研究の作成（考察２の修正・結論・おわりに・文献一覧の作成）
10	介護過程の展開の実際⑯：事例研究の作成（結論・おわりに・文献一覧の作成）
11	介護過程の展開の実際⑰：事例研究の作成（結論・おわりに・文献一覧の修正）
12	介護過程の展開の実際⑱：事例研究の発表の準備（発表の方法・抄録の作成）
13	介護過程の展開の実際⑲：事例研究の発表の準備（抄録の修正・発表原稿と資料の作成）
14	介護過程の展開の実際⑳：事例研究の発表（発表・質疑応答）
15	介護過程の展開の実際㉑：事例研究の発表（発表・質疑応答・総評）